

# いきいき業者婦人



# いどばた

## 第41回総会 No.12

(発行) 静岡市駿河区泉町 7-12-8 松山ビル 2F  
Tel.054-283-8885 Fax.054-286-5263  
静岡商連婦人部協議会

### 婦人部 西から東から

6月から県婦協の取り組みが続いていますが、民商婦人部でも多彩で精力的な取り組みが行われています。この間に寄せられたニュース等を紹介します。

### 静岡県母親大会・島田の感想

#### ぬまづ民商ニュースより

#### 沼津民商 山本冨さん

「沖縄で起こっていること」

キャンペーン富士と沖縄はつながっている」というテーマの分科会に参加しました。話を聞いて、米軍関連の主な事件、事故の多さに驚きました。ほんの一例ですが1995年12歳の少女が3人の米兵に集団暴行される。1995年 沖繩本島中部で6歳の少女が米軍人に暴行され殺害される。1995年沖繩本島中部で9歳の少女が米軍人に暴行され殺害される。それからジェット機やヘリが墜落したり、米軍のトレーラーが落下し民家の庭先で遊んでいた小学5年生の女子が亡くなったり、海兵隊兵士の乗用車に国道を歩いていた母子3人がはねられ死亡したり、母親が連れ出されてから、生後9か月の赤ちゃんが米兵に犯されてしまったり・・・。

と体調を崩す人が多いということとです。2時間の勉強会でしたが、たくさんのお話を聞いて教えていただきよかったです。

### 県婦協学習活動交流会の感想

#### 沼津民商 ニュースより

#### 沼津民商 鷲見孝枝さん

福島原発事故を舞台にしたドキュメンタリー映画「大地を受け継ぐ」を鑑賞しました。2百年続いている農地が被爆、それを苦に父は「お前に農家を勧めたのは間違っていたのかも知れない」という言葉を残して自殺。8代目の息子さんはその土地を引き継いで守らなければならぬ。その土地で作物を作っても販売できない、出荷もできない、食することもできない、ただ放置してしまえば畑は2年でだめになってしまうから作らなければならぬ。自分にはなにかをやっていけるんだらう。これは



風評被害ではなく現実の被害なんだと涙をこらえながら話していた。母親も、色々な困難や苦しみを乗り越えられるのは仲間が頑張っているから、支えがあるからと話し、息子と二人で一生懸命生きていく姿に本当に感動しました。

### 56条廃止の意見書採

#### 伊東民商 河津町

8月29日、河津町に請願書を提出しました。婦人部から石川正代部長はじめ、佐藤美代子副部長、水野千恵子副部長、林事務局長が参加し、紹介議員の小林和子町議（日本共産党）も同席しました。河津町からは議長、第一常任委員長、議会事務局長の3人が参加しました。

### 56条廃止の意見書採

#### 伊東民商 河津町

#### 伊東民商 河津町

懇談では近隣自治体の反応について聞かれ、6月議会の全県婦人部による一斉請願で新たに函南町が意見書採択し、県内では4自治体になったこと、全国でも同様の取り組みが行われ450を超える自治体が採択されていることを伝えました。「青色申告にすればいいのでは」とい



### 島田民商 島田市

う質問もされ「世界の主要国で認めている家族従業者の働き方を日本では認めていない点、申告の種類による問題ではなく人権を否定するものとして廃止を訴えている」と説明しました。また、懇談の中で議長から「民商とはどういう団体なのか」と質問され、民商の活動・運動について説明をしました。懇談の終わりに議長から「これから中小業者の抱える問題でいろいろお話できれば」と申し出があり、こちらも「ぜひお願いしたい」と伝えました。

8月4日、島田市議会に対し56条廃止の意見書採択を求める請願書を提出しました。婦人部長の松浦さんをはじめ中尾さん、伊藤さん、中村事務局長が参加。婦人部員



でもある桜井洋子島田市議も立ち会いました。請願の中身については特に質問が出されませんでした。松浦部長が請願書を手渡し、今後の議会での審議の流れについて説明がされました。

### 静岡県商工業交流研究集會に参加して

#### 浜北民商 ニュースより

#### 浜北民商 阿隅ひとみさん

引き算の発想はマイナス思考と考えていましたが、岩崎先生は「本質的な価値が引き出され、核となる商品をつくることができる」という強みがある」と話されました。逆転発想への転換に必要な勇気と、行動の重要性を学習させていただきま

した。第1分科会では、インターネットやSNSが普及している中、総菜販売の業者婦人から、地道に口コミ・評判で地域に密着しているというお話を伺いました。商売向上に向けて努力されている話を聞いて、自分でも気がつかなかった情報が交換でき、交流できてよかったです。



### 民商の役員学習会で56条の問題を、川島副部長が説明

#### 清水民商ニュースより

8月21日に会員のお店を借りて、役員学習会を行ない、21名が参加しました。第3部で川島文江婦人部副部長が所得税法第56条の問題点について自作のパネルを使いながら「居住者と生計を一にする配偶者その他の親族が、当該事業から受ける対価は必要経費に参入しない。」この法律は明治時代の古い家父長制度によっており、現代にそぐわない。また、家族の働き分の対価を認めないのは、人権として不適切。国連の女性差別撤廃委員会からも是正勧告を受けている。所得税法56条は、速やかに廃止されるべき法律です。と解説しました。



### 藤枝民商定期総会を開催

#### 藤枝民商ニュースより

8月30日、第32回定期総会が開催し、20名が出席しました。山田敏江部長のあいさつで開会し、来賓として堀江政規藤枝民商会長が仲間のつながりと拡大について訴えました。

総会議事では役員が分担して、前年度の活動報告や新年度の活動方針を公表。決算報告や予算案、役員体制案も提案され、満場一致で採択されました。総会議事終了後は、記念行事として日本茶インストラクターを講師に招き「お茶の淹れ方教室」が開催しました。お茶にまつわる歴史などの講演後、実際に一煎、二煎、三煎とお茶を淹れて、その都度、色や味、まろみ、苦みの違いなどを堪能しました。途中、特別に用意された和菓子も食べながら、講師に「他人が淹れたお茶はなぜ美味しく感じる?」「家庭でもできる美味しいお茶の淹れ方は?」「今日のお茶はとも美味いけれど...この茶葉100グラムいくらですか?」など率



針を公表。決算報告や予算案、役員体制案も提案され、満場一致で採択されました。総会議事終了後は、記念行事として日本茶インストラクターを講師に招き「お茶の淹れ方教室」が開催しました。お茶にまつわる歴史などの講演後、実際に一煎、二煎、三煎とお茶を淹れて、その都度、色や味、まろみ、苦みの違いなどを堪能しました。途中、特別に用意された和菓子も食べながら、講師に「他人が淹れたお茶はなぜ美味しく感じる?」「家庭でもできる美味しいお茶の淹れ方は?」「今日のお茶はとも美味いけれど...この茶葉100グラムいくらですか?」など率

直な質問もしたりと、とても気楽な雰囲気行事となりました。参加者からは「月末は多忙なので今回欠席した仲間もいた。来年は開催時期をずらしてほしい」、「欠席した方にも総会資料を見てもらい、婦人部活動の良さを知ってほしい」との意見も出されました。その他、「お茶の淹れた方であんなに美味しく変わるんだ」、「昼食も付いて、とても楽しい!」などの感想も寄せられました。

### 日本母親大会に参加して

#### 分科会「くらし、社会保障、貧困の連鎖を断ち切るために、今、私たちにできることは」

#### 浜松民商 中野三枝子さん

今の政治はどの問題をとっても怒れるものばかりです。子どもの貧困、若者のワーキングプア、下流老人。貧困は深刻化するばかりなのに、なお一層、国民からは税金をどうやって取るのか...ばかり考えているようだ。講じた現状は、全て人権侵害であり、憲法9条、25条、13条...違反である。

「憲法を暮らしに生かそう」京都の知事だった蜷川さんのモットーだったと思うが、そのころからその言葉は「その通り、そうなるといいな」と思っていただけで、暮らしに生かすとは、具体的にはどんなことなのか(男女平等くらいしか頭に浮かんでこなかった)考えたことすらなかったのです。でも、この分科会で裁判にかかわっていることや、こ

の大会に参加していることも、憲法を暮らしに生かしていることなんだと認識ができ、世間で起きている悲惨な事件についても、人権問題としてとらえ憲法の柱である人権、人間の尊厳のために、みんなと力を合わせ頑張ろうの気持ちを改めて持てた分科会でした。

2日目の全体会での記念講演は、琉球新報社編集局政治部長の島洋子さんで「憲法公布、女性参政権行使70年、いのち輝く平和な沖縄・日本を」でした。お話は、いま沖縄で何が起きているのかで始まりました。

5800種もの生物がいる辺野古に、1800メートルの滑走路を2本のほか、現在の基地よりもっと大きく多目的に使えるものを造ること。参議院選挙の結果、オール沖縄の候補が現職大臣の女性に勝ち、沖縄の民意を示したにも関わらず、投票日の翌日オスプレイのヘリパットを高江に造るため、早朝から機材を運び入れて、反対する住民を本土から防犯パトロールとして送り込まれた機動隊によって、ごぼう抜きにされていることなどが話された。また、沖縄は基地があるから生活ができていと言われていることについて、沖縄の総所得のうち、



基地から得られるお金は5%に過ぎず、それも軍用地代や基地で働く9000人の給料は、思いやり予算として私たちの納めている税金から支払われているものだったので、沖縄の怒り、悲しみ、悲惨さは沖縄だけの問題ではない。

こうした現状を許してしまえば、次は本土の人々が同じ目にあう、日本全土の問題でもあり、しっかり認識してほしいと訴えられました。島さんは、沖縄育ち、「こんなにも多くの女性たちが話を聞いてくれ励まされた」と感謝の意を表され、私はこのお話をみんなに伝えることを心に刻み帰路につきました。

